



～設問間の相関関係について～

《相関関係とは》

年齢と収入のように、1つのデータの変化に伴って、もう1つのデータも変化するような関係を**相関関係**といい、1つのデータが増えるとき、もう1つのデータも増えるような関係を**正の相関関係**という。

《設問間の相関関係》

そこで、本調査の56の設問のうち、特に、大局的な評価につながる、「生活満足度」、「定住意向」について、他の設問との相関関係を把握するため、**相関係数**（係数は－1から＋1の間の値をとり、その**値が1に近いほど正の相関関係が強い**ことを示す。）を算出して、分析を試み、その結果を次ページ以降に示している。

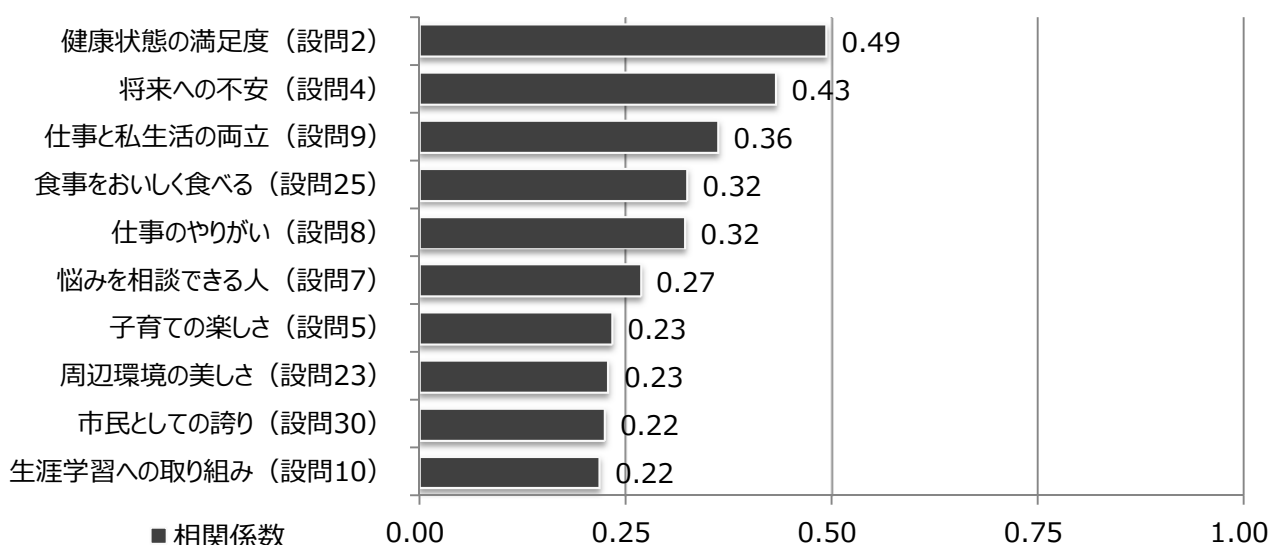
なお、本報告書においては、「生活満足度」と「定住意向」以外の設問間の相関関係については示していないが、次章以降の設問間のクロス集計に当たり、相関係数の比較的高いものを取り上げ、その結果を示している。

（注意事項）

- 相関係数はいくつかの方法により算出することができるが、ここでは、通常用いられるピアソンの相関係数により算出している。
- 設問における選択肢は順位尺度となるが、その値の差が等しい間隔尺度として仮定した上で、相関係数を算出している。
※例えば、設問1の「生活満足度」については、選択肢を、1)満足している、2)どちらかといえば満足している、3)どちらともいえない、4)どちらかといえば満足していない、5)満足していない、に並び替え、その間隔が等しいと仮定し算出している。
- すべての相関係数は、1%水準で有意（偶然に相関関係がみられてしまう確率が1%未満であるということ、すなわち、99%以上の確率で偶然ではないということ。）なものを示している。

生活満足度との相関関係

「生活満足度」（設問1）と意識や行動に関する設問（設問2～30）との相関係数を算出した結果、上位10項目は以下のとおりとなった。



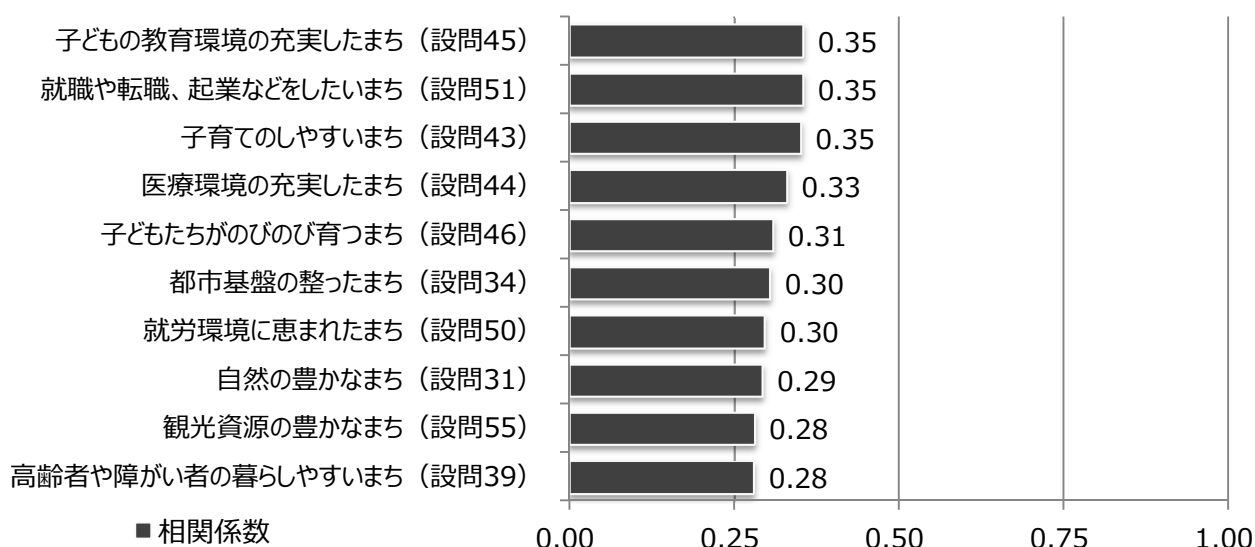
相関係数の一番高いものは、「健康状態の満足度」の0.49となり、次いで、「将来への不安」の0.43、「仕事と私生活の両立」の0.36、「食事をおいしく食べる」の0.32、「仕事のやりがい」の0.32などとなった。

なお、「健康状態の満足度」（24 ページ参照）については、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した割合の合計が61.3%、「仕事と私生活の両立」（35 ページ参照）については、「両立できている」「どちらかといえば両立できている」と回答した割合の合計が64.3%、「食事をおいしく食べる」（58 ページ参照）については、「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した割合の合計が92.4%、「仕事のやりがい」（34 ページ参照）については、「やりがいはある」「どちらかといえばやりがいはある」と回答した割合の合計が58.2%となった。一方で、「将来への不安」（28 ページ参照）については、「不安はない」「どちらかといえば不安はない」と回答した割合の合計が18.1%となった。

このことは、健康状態の満足度のさらなる向上や、仕事と私生活の充実を図るとともに、特に、将来への不安を取り除くことにより、生活満足度をより効果的に高められることを示唆しているものと考えられる。

定住意向との相関関係

「定住意向」（設問 56）と岐阜市のイメージに関する設問（設問 31～55）との相関係数を算出した結果、上位 10 項目は以下のとおりとなった。



相関係数の一番高いものは、「子どもの教育環境の充実したまち」、「就職や転職、起業などしたいまち」、「子育てのしやすいまち」の 3 つの項目でそれぞれ 0.35 となり、次いで、「医療環境の充実したまち」の 0.33、「子どもたちがのびのび育つまち」の 0.31 などとなった。

なお、それぞれ「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合の合計が、「子どもの教育環境の充実したまち」（85 ページ参照）では 49.2%、「就職や転職、起業などしたいまち」（92 ページ参照）では 31.2%、「子育てのしやすいまち」（80 ページ参照）では 54.9%、「医療環境の充実したまち」（83 ページ参照）では 67.1%、「子どもたちがのびのび育つまち」（86 ページ参照）では 42.0%となった。

このことは、子どもの教育環境や子育て環境、医療環境の充実を図るとともに、岐阜市で働きたいと思わせるような環境をつくることにより、定住意向をより効果的に高められることを示唆しているものと考えられる。